



次節情報

関東リーグ第18節

10月28日(日) Kickoff 14:00 VS 東洋大学

アクセス

《三ツ沢公園陸上競技場》

TEL:03-3830-1850 (本連盟にご連絡下さい)

〒221-0855

神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢西町 3-1

- ・「横浜」駅西口より市営または相鉄バス乗車、「三ツ沢総合グランド入口」下車徒歩2分または徒歩25分
- ・横浜市営地下鉄「三ツ沢上町」より、徒歩15分

週刊 ア式

OFFICIAL MATCHDAY LEAFLET

Waseda University Association Football Club

【Vol. 17】2018 年 10 月 20 日 発行

2018 年度 関東リーグ 第 17 節

早稲田大学 vs 国士舘大学

同じ相手に二度負けることは許されない。前期の敗戦のリベンジを期して臨んだ前節は試合終了間際、相馬から岡田のホットラインでなんとかドローに持ち込んだ。直近四戦を負けなしで迎える今節は、同じ昇格組ながら早稲田とは対照的に、最下位に沈んでいる国士舘大学との対戦である。残留のために死にものぐるいで襲いかかってくる相手を超える優勝への気持ちをプレーで示せるかどうか。両者の熱い思いがぶつかるこの一戦、まさに正念場である。

PICK UP PLAYER

恵まれた体格で球際を制し、鋭い縦パスで攻撃のスイッチを入れるア式のDFリーダー。守備を統率するキャプテンシーと気迫のこもったプレーで選手たちの闘志を奮い立たせる。今節も最終ラインの壁となり相手の攻撃をはねのけ、正確なフィードから攻撃の起点となるだろう。

大桃海斗

DF 3 年
帝京長岡高校



東

京オリンピッククを見据えるア式の絶対的守護神、小島亨介。年
代別代表にも選出され、大学サ

ッカーの枠にとどまらず、日の丸を背負い世界を舞台に戦い続けてきた。先日大分トリニータへの加入も内定し、プロ選手としての新たなスタートも近い。世界を知る彼が、残りの大学生活にかける熱き想いを語る。

Ryosuke Kojima

-----大分トリニータへの入団が決まったことについて

サッカーを始めたときからプロサッカー選手になることは目指していたので、素直になれたことは嬉しいですし、とても光栄に思います。

-----大分トリニータを選んだ理由は？

練習参加をした際に、クラブの人達が同じ方向を向いて目標に取り組んでいるという印象を受けて、自分もこの環境でサッカー面でも社会人としても成長したいと思ったので、このクラブに決めました。

-----世代別代表に選ばれ続けています
が、代表とア式の違いを教えてください

やっぱり代表チームに選ばれている以上、基礎技術は非常に高いものがある。さらに自分の強みを持っていて、それをピッチで表現できる選手が多いなどは感じます。でも大学生も真摯に取り組むという点では負けていないので、自分も代表ではそこは常に意識しています。

-----先日U21代表のアジア大会がありました
が、印象に残った選手は？

上田綺世（現・法政大学2年）ですね。どの試合も厳しい戦いで一点差のゲームが多くあった中で、その一点を取っていたのが途中交代で入ってきた綺世だった。勝利に導くことができる選手がい

るってことはチームにとって大事ですし、チームを勢いづけるっていう意味でも重要な存在なんだなと感じさせられました。

-----小島にとって根木とは？

一言でいうと難しいな（笑）同じゴールキーパーで同期一人だし、同じタイミングでア式に入ったので、お互いのことを意識しているのはある。なかなかこの4年間で一緒にプレーすることはなかったけど、根木の努力している姿は自分にはまだまだ努力が足りないって思わせてくれる。だから根木がいて自分は成長できたなって思っています。今は自分が試合に出ているから、しっかりとチームの勝利のために戦って、その結果で根木だったり他の自分を成長させてくれた人と喜びを共有するっていうのを意識しています。

-----私生活の楽しみを教えてください

うーん寝ることかなあ。あとはコーヒーが好き。昼飯後とか絶対コーヒー飲むし。うーんすみません。あんまりないです（笑）

-----根木さんからいつも歌っていると聞きましたか……

あ、嘘です（笑）根木情報は嘘です（笑）

-----最後に残りのア式生活について教えてください

総理大臣杯が終わってしまつて、タイトルを一つ自分たちの手でなくしてしまつたのは事実。でもそれでも関東リーグとインカレとまだ2つタイトルを取るチャンスがあるので残り少ない大学生活、タイトルを取ることを意識しながら、チームのために日々頑張りたいと思います。

早稲田大学ア式蹴球部公式 英語版ツイッター開設のお知らせ

この度早稲田大学ア式蹴球部は大学サッカー史上初となる英語版公式ツイッターを開設致しました。このアカウントを通じて、私たちは世界と繋がり、そして世界にア式蹴球部という存在をアピールしていく所存です。従来の公式ツイッターでは見られない特集もありますので、是非ご覧ください。

Twitter：@UnivMen

-----ア式に入った理由

自分は小学校の時に割と強いチームにいた。それで中学でも強いチームでやりたいと思って東京にきたけど受験に落ちて弱いチームに入っちゃって、その時に自分のサッカーに対する熱と、周りがあってないことが歯がゆくて辛かった。その後、Jチームのセレクションを受けたんだけど、そこで初めて同世代のトップレ

期に小島亨介というビッグネームがいる中で、根木秀彰は愚直に挑戦し続けてきた。彼にとって小島は原動力であり、指針である。輝き続ける小島の陰で、ひたむきに努力を重ね、確固たる信念を貫いてきた彼は今何を思うのか。努力家、根木のサッカーへの情熱、そして小島との4年間に迫る。

同



Hideaki
Neki

ベルの選手達と一緒にプレーして、俺はもしかしたらこの中でもやれるかもしれないって中2で思った。高校で強いチームに行きたかったけど、また受験に失敗して強い高校に行けなかったから、だったら大学でトップレベルの選手と一緒にやりたいなと思っていろいろ調べた。そんなときに早稲田の試合を見る機会があった、そこで早稲田の選手に感動した。当時ア式には宮本さん（現・水戸ホーリーホック）というトップレベルの選手がいたんだけど、その選手が補助学生を真面目にやっている姿を見て、早稲田ってサッカーでも熱い思いを持っているし、スタープレーヤーでも真面目に仕事するし、こういうところでやりたいなと思ってア式に入団を決めた。

-----小島亨介という絶対的な存在がいる中で、どのような気持ちで取り組んできたか

まず高3の受験期にスポーツ推薦が発表されて、そこに小島亨介の名前が載っているのを見て「うわぁ」と思った。同世代の代表に入り続けている奴に自分が挑戦するんだって受かってもないのにワクワクして、絶対に早稲田に入りたいって一緒にやりたいなっていうモチベーショ

ンにもなった。ア式の活動に参加してからは、最初は小島のオーラに圧倒されて喋りかけることもできず、プレーでもその差を実感した。自分はランテスト（ア式の入団テスト）にも落ち続けて、先輩にもいろいろ言われたけど、それでも入部を諦めなかったくらい小島と一緒にやれる環境に憧れていた。自分もア式でトップレベルの選手になる、小島を超えると思ってここにきたしね。自分は小島とやるからには人一倍練習したし、小島より絶対練習してやろう、下手な分気持ちやエネルギーの部分で圧倒してやろうってやっていた。でも実際は追いつくどころか下級生にもどんどん抜かれて、同期のGKとしてこんなに差があっていたのかになって悩んだ時期もあったかな。でも、それでも早稲田だからこそ自分と小島が出会えたと思っているし、入って本当に良かった。テニスコート2面で練習していた自分とトップレベルの小島が出会えたということ。交わるものがない二人が大学サッカーだからこそ交わったんじゃないかと思う。やっぱり本当に早稲田にきてよかったかな。

-----一言でいうと小島とは

あいつの一番いいところは謙虚なところ。失点シーンでさえも自分からどうだったって俺なんか聞いてくる。俺なんかはプライド高いから自分で考えて解決しようとしちゃうし、普通はこんなことできないと思う。自分の弱点に向き合う姿勢だとか、どんな人にもアドバイスを求めるところは素晴らしいなって同期として思う。代表に入っていることで威張ったことも一切ないし、きつい練習にもポジティブに取り組むし、一言でいうとねえ・・・言えないなあ（笑）

-----英語版ツイッターを創設した理由

これも小島が関わってくるんだけど、この前のアジア大会で小島がソフンミン（現・トッテナム）のシュートを止めるのを見て、ア式と世界って近いなって思った。そこから掘り下げていくとサッカーをやっている以上、自分達は世界とつながってるし、世界の人もサッカーを通じて自分達を知ってくれるかもしれないと感じた。早稲田大学って留学生が圧倒的に多いんだけど部活にいとそういう人たちと関わる機会が少ないし、何らかの形で関われたらなと思った。あとはチームが苦しい時期になにか新しい空

気を入れたかったから、監督に希望して始めたかな。実際大学サッカーから世界に行ってるわけだし、注目を集めると言うから、そのアクセスを楽にしたら早稲田にもスカウトが来るかもしれない。レアルマドリードのスカウトがこのツイッターで選手を取ってくれないかなあとか頭の片隅では考えたりもするよ（笑）

-----残りのア式生活へ

試合に出れなくて悔しいっていう思いがある。誰でも全部が全部上手いくわけじゃないと思うし、俺自身は良い意味でも悪い意味でもそんなに深刻に悩むタイプではない。悪いからこそ何か変えてやろう、気持ちを楽にしてチャレンジしてみようっていう姿勢を俺は意識しているから、後輩にはこの姿勢とかを自分から感じ取ってもらえればなと思います。

順位表(第16節終了時点)

1	早稲田大学	36
2	順天堂大学	27
3	筑波大学	27
4	明治大学	25
5	法政大学	25
6	流通経済大学	23
7	駒澤大学	22
8	専修大学	21
9	東洋大学	20
10	桐蔭横浜大学	19
11	東京国際大学	14
12	国土館大学	8